

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果(平成24年度)の概要

2. 分野等別状況 (1)国際戦略総合特区(3/7)

	評価区分(*1)	総合評価 (IとIIの平均値にIIIを加味)	I 目標に向けた取組の進捗に関する評価	II 支援措置の活用と地域独自の取組の状況	III 現地調査時の指摘事項及び対応状況等(*2)	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
アジアヘッドクォーター特区 (東京都)	準	B 4.2	A 4.5 進捗度 ・外国企業からの相談件数 170%	B 3.6 規制の特例等 ・ビジネスジェットの使用手続簡略化 等 地域独自の取組 ・税制のインセンティブ(法人事業税などの軽減) 等	+0.14	<p>・進捗自体は着々と進んでいる(※1)と判断できる。</p> <p>・世界を代表するメガシティとしての東京都が、過去の実績や現在のアクティビティを生かして、<u>大きなビジョンの提示(※2)とより積極的な取組をしていくことが期待される。</u></p> <p>・特区の成果を示すためにはもう少し期間が必要と思われる(※3)。現在の意欲をさらに持続させてほしい。行政と民間の役割分担も明確にして、<u>それぞれの持ち味を生かすことが必要。</u></p> <p>※1: ・外国企業からの相談件数(H24目標)500件、(実績)849件、進捗度170% ・都市開発プロジェクトの件数(H24目標)4件、(実績)4件、進捗度100% ・外国人のビジネス・生活環境施設の整備(H24目標)2件、(実績)2件、進捗度100%</p> <p>※2: アジアをはじめとする世界の都市間競争を勝ち抜き、東京をアジアのヘッドクォーターへと進化させる。現段階における主な具体のプランは以下のとおり。 ・誘致対象外国企業に対する税制優遇(現行38%→28.9%) ・ビジネスコンシェルジュによるワンストップサービス(各種相談、手続代行) ・外国語で受診可能な医療機関の拡大 ・自立・分散型エネルギーネットワークの構築による災害に強いビジネス環境整備</p> <p>※3: 評価指標は多国籍企業等の誘致数であるが、企業的意思決定には時間を要すること等。</p>

◆評価書は[こちら](#)

◆評価結果は[こちら](#)

*1)「正」とは正評価、「準」とは準評価を意味する。 *2)「Ⅲ」については、「地方公共団体による総合評価の状況」についても評価している。